

地域ネットワークニュース

～11月の勉強会のお知らせ & 10月の勉強会報告～

第145回地域ネットワーク勉強会

11月11日(水)19:00～
保健・福社会館 研修室

発達障害の特性を理解しよう

講師：ホープ発達教育研究所 合田光子氏

参加費 無料



自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの「発達障害」は、同じ診断名でも、子どもたちはそれぞれに得意なこと、不得意なことがあります。100人いれば100通りの支援を必要としています。大切なことは、それぞれの子どもを見つめて、得意なところをのばし、苦手なところに適切なサポートをすることです。

「友達と上手に遊べない」「乱暴」「落ち着きがない」などの行動の裏側には必ず原因やその子どもなりの目的があります。原因や目的を見極めず、注意や叱責ばかりが続くと子どもは自信がなくなり、逆に問題行動を過剰にさせてしまう要因にもなりかねません。

そのため、子どもに関わる人々が一人ひとりの個性を理解し、幼児期から自尊感情や安心感が得られるような関わりをすることが、生涯の安心した暮らしの基盤となります。

そこで、今回の勉強会は発達障害の正しい特性の理解と支援する側の持つべき視点についてお話頂きます。

多くのお子さんに関わっている保育関係者や、関心をお持ちのみなさんのご参加をお待ちしています。



【講師紹介：合田光子氏】

鹿嶋市において「ホープ発達教育研究所」を開設し、発達障害児・者とその家族、支援者の相談やコンサルテーションを行い、また、鹿行地区の小・中・高等学校のスクールカウンセラーも兼任されています。

今回の勉強会は保育士、幼稚園教諭等を対象にした「第5期発達障害療育者研修会(全5回/夜間講座)」との合同開催となっています。発達障害の理解をより深めるために、ぜひご参加ください。

詳細は社協ニュース11月号もしくは社協ホームページをご覧ください。(http://www.kamisushakyo.com)

第144回地域ネットワーク勉強会 報告 平成21年10月19日開催 <参加者47名>

権利擁護活動における日常生活自立支援事業 と成年後見制度について

【講師：茨城県社会福祉士会会長 竹之内章代氏】

竹之内章代氏の講演は、日常生活自立支援事業と成年後見制度の両制度を上手に活用し、地域の中で権利侵害を被らずに安心して暮らしていく方法を、実際に関わった事例を通してわかりやすく伝えて下さいました。

地域で暮らす方々の権利擁護を進めていくためには、1人1人の暮らしを大切に考え見つめる目と、サービスや情報を知ること、活用できること、地域の社会資源が良い意味で繋がっていること、官民一体となった地域福祉の土壌作りが必要で、「権利擁護はネットワークをつくること」こそが重要であることを学ぶことが出来ました。

